

コンパクトディスク プレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。



この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



CDP-LSA1

この取扱説明書の使いかた

- 「準備」(4~5ページ) をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは、「CDを聞く」(6ページ) をご覧ください。
- この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。
- リモコンでは、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。

目次

準備

箱から出したら	4
接続する	4

CDを聞く	6
-------------	---

CDのいろいろな聞きかた

表示窓の見かた	8
聞きたい曲や曲の中の聞きたい部分を探す	11
繰り返し聞く（リピート演奏）	12
順不同に聞く（シャッフル演奏）	13
聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム演奏）	13

その他の機能

表示の明るさを変える	15
本機の電源を自動的に切る（パワーセーブ機能）	16
i.LINKについて	16

その他

使用上のご注意	19
CDの取り扱い上のご注意	20
故障かな？と思ったら	20
保証書とアフターサービス	21
主な仕様	21
メッセージ表示一覧	22

索引	23
----------	----

箱から出したら

次の付属品がそろっているかを確認してください。

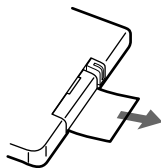
- i.LINKケーブル (4ピン↔4ピン) (1)
- リモコン (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- 保証書 (1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンを使う前に

カードリモコンには、出荷時にリチウムボタン乾電池 (CR2025) 1個が内蔵されています。

お使いになる前に、下図のようにして絶縁シートをリモコンから引き抜いてください。



リモコンで操作するときは

リモコンを本体のリモコン受光部 R に向けて操作する。

液もれを防ぐために

長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。

☀ 乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 子供の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- 接触不良を防ぐため、使用する前に電池ケースの中と電池を乾いた布でよく拭いてください。
- +と-の向きを正しく入れてください。
- 金属製のピンセットなどで電池をつかまさないでください。ショートするおそれがあります。
- 充電しないでください。
- 液漏れしたときは、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 電池を長い間入れたままにしておくと、電池の一部に白い粉がつくことがあります。乾いた布などで拭き取ってからお使いください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 R に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコン操作ができない場合があります。

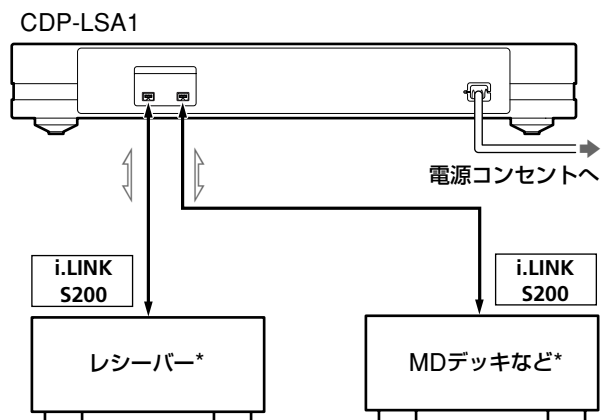
警告

乾電池の使い方を誤ると、破裂のおそれがあります。分解や加熱をしないでください。また、捨てるときは燃えないゴミとして処理してください。

接続する

概要

レシーバーやMDデッキと本機をつなぎます。接続するときは、各機器の電源を必ず切ってください。



⇄: 信号の流れ

* 2つのi.LINK端子のうち、どちらにもつなぐことができます。

必要な接続コード

i.LINKケーブル (1本のみ付属)



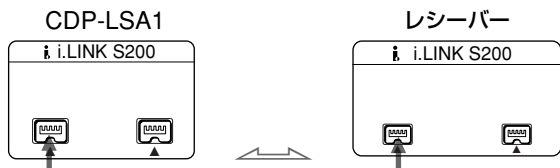
別売りのケーブルをお使いになるときは、下記のソニー製i.LINKケーブルをお使いください。

- VMC-IL4415 (1.5 m)
- VMC-IL4435 (3.5 m)

つなぐ

本機とレシーバーをつなぐ

本機とレシーバーのi.LINK S200端子を、付属のi.LINKケーブルでつなぎます。i.LINK対応機器はどちらのi.LINK S200端子につないでもかまいません。



→: 信号の流れ

ご注意

- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- i.LINK S200端子の内部に金属片などを入れないでください。ショートするおそれがあります。
- 本機の動作中（録音中など）に、本機や本機に接続しているi.LINK対応機器のi.LINKケーブルを抜き差ししないでください。誤動作するおそれがあります。
- 本機のi.LINK S200端子と他の機器のi.LINK S200またはS400端子を、i.LINK S100端子を備える機器をはさんで接続しないでください。
- 本機が、i.LINK S200またはS400端子を備える機器とLINCしているとき、他のi.LINK S100端子を備える機器からはこれらの機器に正しくLINCできません。このときは、i.LINK S200またはS400端子を備える機器に対して、まずi.LINK S100端子を備える機器からLINCした後で、本機からLINCしてください。LINC (Logical Interface Connection) について詳しくは、18ページをご覧ください。

💡 もう一方のi.LINK S200端子に他の機器をつなぐことができます

本機は以下のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。

- レシーバー STR-LSA1
- MDデッキ MDS-LSA1

必ずソニー製i.LINK S200ケーブル（4ピン↔4ピン）を使ってください。

上記の機器の間には他のi.LINK対応機器をつながないでください。

💡 本機が対応している信号は、以下のとおりです

伝送プロトコル A&Mトランスミッション
プロトコル (IEC61883-6)
信号フォーマット 2チャンネルリニアPCM
(IEC60958)

サンプリング周波数 (出力) 44.1 kHz

本機が出す信号を受信できない機器と接続しても、聞いたり録音したりすることはできません。各機器が対応している信号の種類、暗号化について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

💡 i.LINKについて

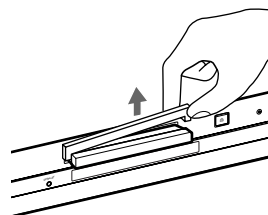
詳しくは「i.LINKについて」(16ページ)をご覧ください。

電源コードを接続する

電源コードをコンセントにつなぎます。

保護材をはずす

ディスクトレイについている保護材をはずし、持ち運ぶときのために保管しておきます。



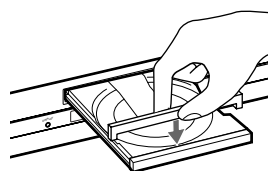
電源コードをコンセントにつなぐと、しばらくしてディスクトレイは自動的に閉まります。

保護材の取り付けかた

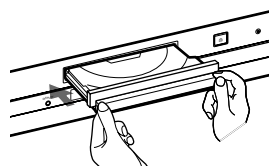
本機を持ち運ぶときは、ディスクトレイに保護材（本機を箱から出したときにはずしたもの）を取り付け、セロテープなどで固定します。保護材を取り付けないと、輸送中に本機を損傷するおそれがあります。

1 ディスクトレイが開いているときに、電源コードを抜く。

2 下のように、保護材をディスクトレイにのせる。

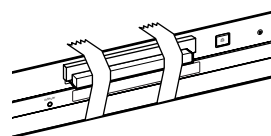


3 指でディスクトレイを押し閉める。

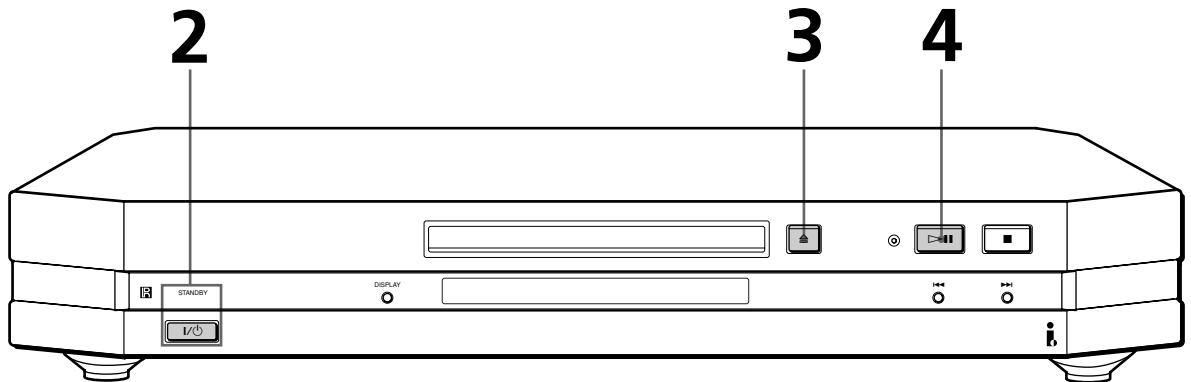


ディスクトレイの両端をゆっくり押す。

4 セロテープなどで固定する。



CDを聞く



接続については4、5ページをご覧ください。

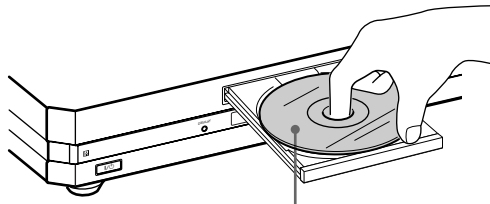
ご注意

手順3では、CDは1枚だけトレイに置いてください。
2枚以上置くと、CDや本機の故障の原因となることがあります。

1 レシーバーの電源を入れ、オーディオソースとしてCDプレーヤーを選ぶ。

2 I/Oボタンを押して本機の電源を入れる。
STANDBYランプが消えます。

3 合ボタンを押して、ディスクトレイにCDを置く。

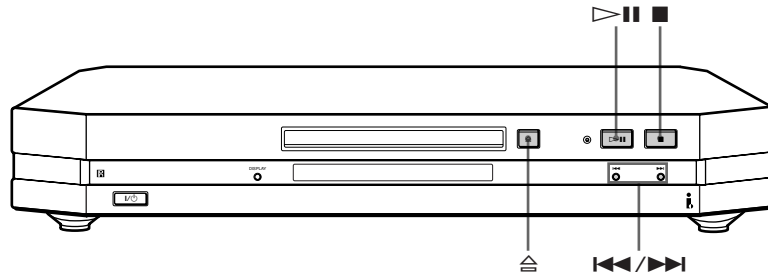


文字の書いてある面を上にして置いてください。シングルCDの場合は、内側の円の中に置いてください。

4 ▷||ボタンを押す。
ディスクトレイが閉まり、全ての曲を順番に演奏します（ふつうの演奏）。
レシーバーで音量を調節します。

止めるときは

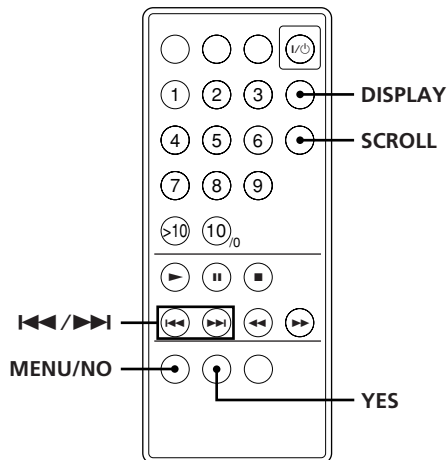
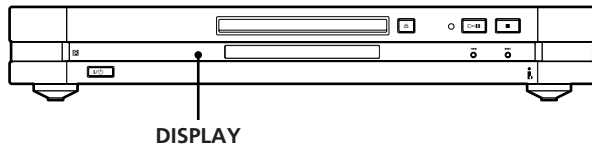
■ (停止) ボタンを押す。



こんなときは	押すボタン
途中で止める	▷
途中で止めたあと、つづきを聞く	▷
次の曲へ進む	▶▶
前の曲へ戻る	◀◀
演奏を止めてCDを取り出す	◻

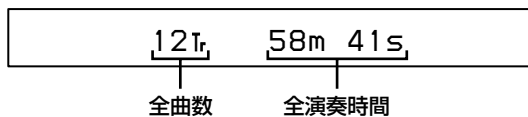
表示窓の見かた

表示窓を使って、CDの全曲数や全演奏時間、残り時間などを調べることができます。



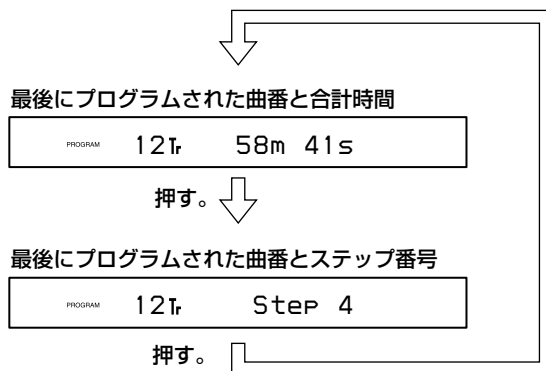
CDの全曲数と全演奏時間を調べる

停止中に、CDの全曲数と全演奏時間が表示窓に表示されます。



💡 プログラム演奏で停止中にDISPLAYボタンを押すと

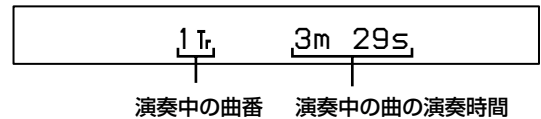
押すたびに、表示窓に次のように表示されます。



* DISPLAYボタンを押さなくても、数秒たつともとの表示に戻ります。

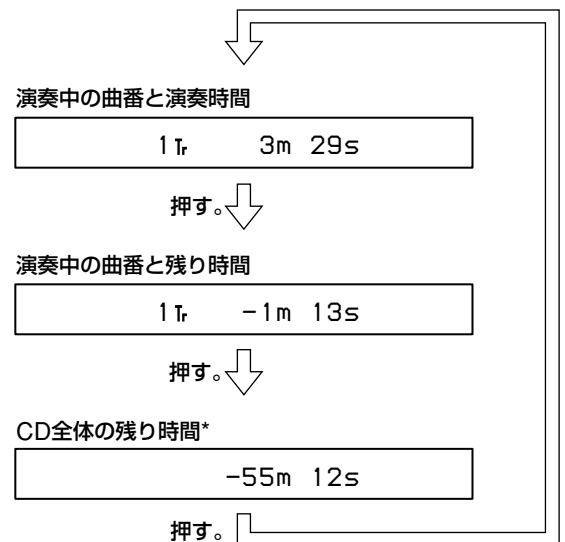
演奏中の表示窓の見かた

演奏中は、演奏中の曲番と演奏時間が表示窓に表示されます。



演奏の残り時間を調べる

演奏中、DISPLAYボタンを押すたびに、表示窓に次のように表示されます。



* シャッフルやプログラム演奏では表示されません。

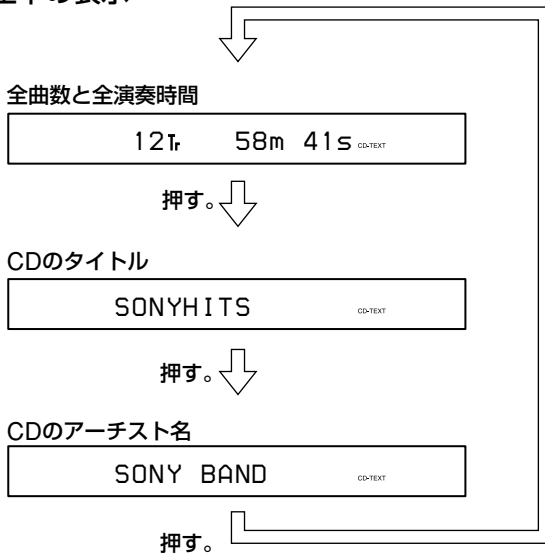
CD TEXTの情報を調べる

今までのCDでは何も記録されていなかった部分に、CDのタイトルやアーティスト名などの情報を記録させたものがCD TEXT付きCDです。本機では、CD TEXTの情報を表示させて、CDのタイトルやアーティスト名、演奏中の曲名を調べることができます。CD TEXT付きCDを入れると、「CD-TEXT」が表示されます。CD TEXTが複数の言語で記録されているときは、「CD-TEXT」と「MULTI」が表示されます。他言語で情報を表示させる場合は、「CD TEXTの情報を他の言語で見る」(10ページ)をご覧ください。DISPLAYボタンを押すたびに、表示窓に次のように表示されます。

ご注意

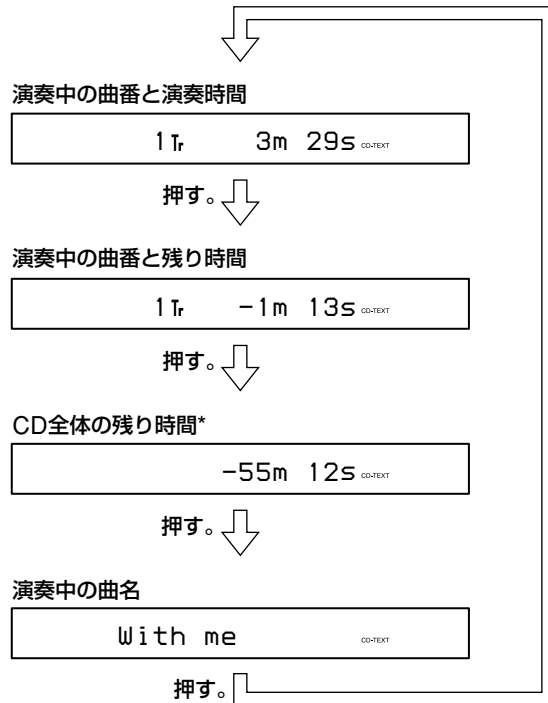
- 本機で表示できるのは、英数字のみです。日本語は表示されません。
- 日本語のみが記録されているCD TEXT付きCDでは、「CD-TEXT」は表示されません。

停止中の表示




- 💡 プログラム演奏で停止中にDISPLAYボタンを押すと8ページをご覧ください。

演奏中の表示



* シャッフルやプログラム演奏では表示されません。

CD TEXTの情報 (CDのタイトル、アーティスト名、曲名) が15文字以上のときは、全ての情報が1度スクロール表示された後、最初の14文字が表示されます。

- 💡 15文字目以降の情報を表示させるには  SCROLLボタンを押す。
CD TEXTの情報がスクロール表示された後、最初の14文字が表示されます。

ご注意


- ディスクによって、全ての文字を表示できないことがあります。
- 本機は、CD TEXT情報のうち、CDのタイトル、アーティスト名、曲名のみを表示します。その他のCD TEXT情報は表示できません。

CD TEXTの情報を他の言語で見る



CD TEXT付きCDが複数の言語で記録されていると「CD-TEXT」と「MULTI」が表示され、表示を切り替えることができます。

- 1 停止中、MENU/NOボタンを押す。
「Select Lang」が表示され、現在選択されている言語で情報が表示されます。
- 2 YESボタンを押す。
「English」が点滅します。
- 3 表示させたい言語名が表示されるまで◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押す。
- 4 YESボタンを押す。
「TEXT Reading」が表示されたあと、新たに選択した言語で情報が表示されます。
- 5 調べたい情報が表示されるまでDISPLAYボタンを押す（9ページ）。


 **現在表示中の言語を確認できます。**
演奏中、MENU/NOボタンを押す。
「Show Lang」が表示されたあと、現在選択されている言語名が表示されます。
もとの表示に戻すには、もう1度MENU/NOボタンを押します。

ご注意

- 選択した言語は、電源を切ったり、電源コードをコンセントから抜いても本機に記憶されています。
- 選択できる言語は、CDにより異なります。

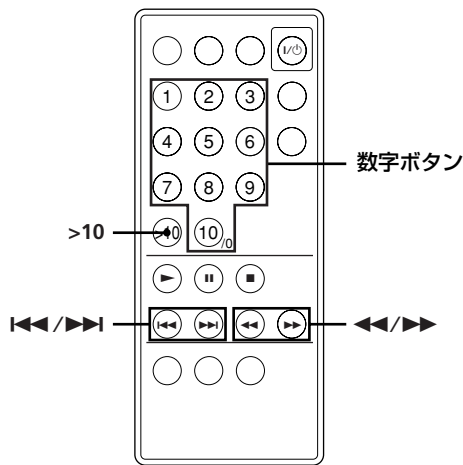
その他の表示について

i.LINKケーブルを使って、PING機能のあるソニー製機器と本機をつなぎ、本機がオーディオソースとして選択されていると、本機の表示窓に「▶▶◀◀」が表示されます。ただし、STANDBYランプが点灯しているときは表示されません。

 **H.A.T.S.ランプが点灯しているときは**
レシーバーでH.A.T.S.機能がはたらいています。
H.A.T.S. (High quality digital Audio Transmission System) 機能が働いていると、入力されたデジタルオーディオ信号を一時的にバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けず、音質が良くなります。

聞きたい曲や曲の中の聞きたい部分を探す

オートマチック ミュージック センサー
リモコンのAMS (Automatic Music Sensor) ボタンや数字ボタンを使って、曲の中の聞きたい部分や聞きたい曲を探ることができます。



- 💡 11曲目以降を選ぶときは
 - >10ボタンを押してから、10の位の数、1の位の数という順に数字ボタン(1~10)を押します。
 - 0は10/0ボタンを使います。
 - 例：30曲目を選ぶとき
数字ボタンを、>10 → 3 → 10/0の順に押す。

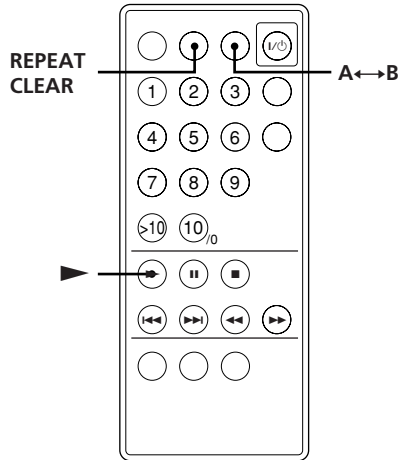
ご注意
リモコンの▶▶ボタンを押して最後の曲の終わりまで進むと、「-OVER-」が表示されます。リモコンの◀◀ボタンを押して戻してください。

探しかた	操作のしかた
次の曲またはその後の曲を頭出しする	聞きたい曲が選ばれるまで▶▶ボタンを繰り返し押す。
演奏中の曲または前の曲を頭出しする	聞きたい曲が選ばれるまで◀◀ボタンを繰り返し押す。
曲番で直接選ぶ	聞きたい曲番の数字ボタンを押す。
曲を聞きながら探す	聞きたい部分になるまで◀◀または▶▶ボタンを押したままにする。
表示窓の演奏時間を見ながら探す (高速サーチ)	一時停止中、聞きたい部分になるまで◀◀または▶▶ボタンを押したままにする。 この操作中、音は聞こえません。

繰り返し聞く (リピート演奏)



どの演奏状態でも繰り返し聞けます。



演奏中、「REPEAT」が表示されるまでREPEAT CLEARボタンを繰り返し押します。

次のように繰り返し聞けます。

演奏状態	繰り返される内容
ふつうの演奏 (6ページ)	全曲を曲番順に
シャッフル演奏 (13ページ)	全曲をシャッフルして
プログラム演奏 (13ページ)	プログラムした曲順に

リピート演奏をやめるときは

「REPEAT」または「REPEAT 1」が消えるまでREPEAT CLEARボタンを繰り返し押します。

1曲だけを繰り返す (1曲リピート)

どの演奏状態でも、1曲だけを繰り返し聞けます。
繰り返したい曲の演奏中、「REPEAT 1」が表示されるまでREPEAT CLEARボタンを繰り返し押します。

1曲リピートをやめるときは

「REPEAT」または「REPEAT 1」が消えるまでREPEAT CLEARボタンを繰り返し押します。

聞きたい部分を繰り返し聞く (A↔Bリピート)

曲の中の聞きたい部分を指定して、繰り返し聞けます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。2曲以上にまたがった部分は、繰り返し聞けません。

1 演奏中、繰り返したい部分の始点 (A点) でA↔Bボタンを押す。
「REPEAT A-」の「A-」が点滅します。

2 繰り返したい部分の終点 (B点) まで行き、もう1度A↔Bボタンを押す。
「REPEAT A-B」が表示され、指定した部分を繰り返します。

A↔Bリピートをやめるには
REPEAT CLEARボタンを押す。

繰り返す部分を次に進めるときは

いままで繰り返していた部分の終点を始点に変えて、繰り返す部分を先に進めることができます。

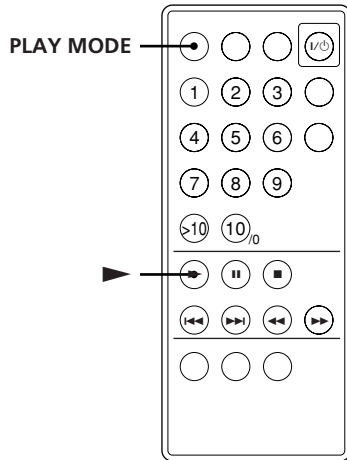
- A↔Bリピート中にA↔Bボタンを押す。
いま繰り返していた部分の終点 (B点) が次の部分の始点 (A点) になり、「REPEAT A-」の「A-」が点滅します。
- 新しく繰り返したい部分の終点 (B点) まで行き、もう1度A↔Bボタンを押す。
「REPEAT A-B」が表示され、新たに指定した部分を繰り返します。

A点に戻るには
A↔Bリピート中に▶を押す。

順不同に聞く (シャッフル演奏)



CDの全曲を曲番に関係なく、本機がランダム（無作為）を選んで演奏します。



- 1 停止中、「SHUFFLE」が表示されるまで、PLAY MODEボタンを繰り返し押す。
- 2 ▶ボタンを押してシャッフル演奏を始める。
次の曲を選んでいる間は、「♫」が表示されます。

シャッフル演奏をふつうの演奏に戻すときは

停止中、「SHUFFLE」が消えるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。

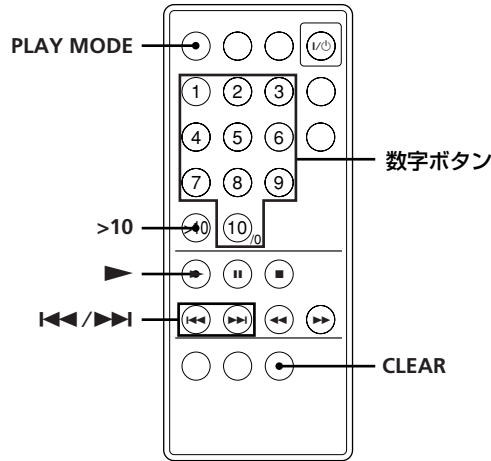
ご注意

演奏中にPLAY MODEボタンを押しても演奏状態は変わりません。

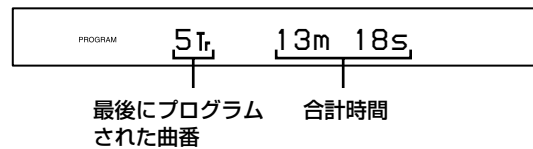
聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム演奏)



最大25ステップまでプログラムできます。



- 1 停止中、「PROGRAM」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。
- 2 数字ボタンを使って、プログラムしたい曲番をプログラムしたい順に選ぶ。
例: 曲番2、8、5、をプログラムするときは、数字ボタンを2、8、5の順に押す。



11曲目以降の曲番を選ぶには
>10ボタンを使う（11ページ）。

間違った曲番を入れたときは

CLEARボタンを押してから、正しい曲番を入れる。

- 3 ▶ボタンを押してプログラム演奏を始める。

プログラム演奏をふつうの演奏に戻すときは

停止中、「PROGRAM」が消えるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。

💡 プログラムを消すか合ボタンを押すまで、作ったプログラムは残っています

プログラム演奏が終わったり、他の演奏状態にしても、プログラムには影響ありません。

ご注意

- プログラムの合計時間が100分を超えたときは、「--m --s」が表示されます。
- 26曲以上登録しようとするとき「Step Full!」が表示されます。
- 演奏中にPLAY MODEボタンを押しても演奏状態は変わりません。

プログラムの内容を変更する

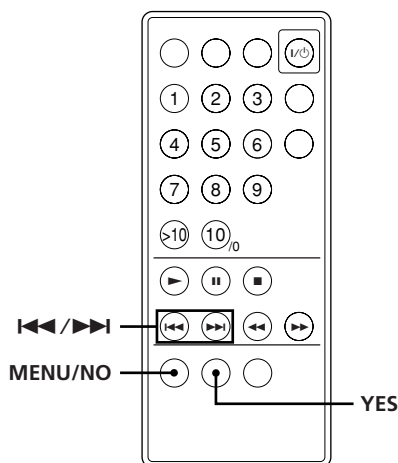
停止中、プログラムの内容を変更できます。

変更のしかた	操作のしかた
最後の曲から消す	CLEARボタンを押す。 押すたびに、プログラムした最後の曲から消える。
最後に追加する	追加したい曲番の数字ボタンを押す。
すべてを消す	CDの合計曲数と合計時間が表示されるまでCLEARボタンを押したままにする。新しくプログラムするときは、もう1度プログラムする。

表示の明るさを変える



表示の明るさを4段階で変えることができます。「DIMMER3」または「DIMMER4」を選んだときは、操作ボタン（合、▶||、■）が消灯します。



- 1 停止中、「Setup Menu」が表示されるまで MENU/NOボタンを繰り返し押す。
- 2 「Dimmer」が表示されるまで◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
- 3 ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押し設定したい明るさを選び、YESボタンを押す。

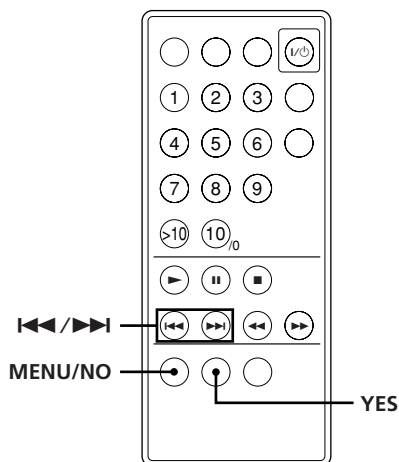
設定	表示の状態
Dimmer1 (初期設定)	表示窓は通常の明るさで表示され、操作ボタンは点灯する。
Dimmer2	表示窓はすこし暗くなり、操作ボタンは点灯する。
Dimmer3	表示窓はすこし暗くなり、操作ボタンは消灯する。
Dimmer4	表示窓は消灯し、操作ボタンも消灯する。

- 4 MENU/NOボタンを押す。

- 💡 表示窓が消灯しているときに操作すると表示窓は数秒間少し明るくなり、再び消灯します。
- 💡 表示窓が消灯しているときにメニュー設定するとメニュー設定中は表示窓は少し明るくなります。
- 💡 本機の表示の明るさは、本機に接続されているレシーバーの表示と同じ明るさになります
レシーバーのi.LINKコントロール機能がはたらいしているときは、本機の表示の明るさは、レシーバーで設定した表示の明るさと同じになります。

本機の電源を自動的に切る (パワーセーブ機能)

パワーセーブ機能が働いていると、5分間何も操作されないと自動的に電源が切れ、STANDBY状態になります。



- 1 停止中、表示窓に「Setup Menu」が表示されるまでMENU/NOボタンを繰り返し押す。
- 2 「Power Save」が表示されるまで◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
- 3 ◀◀/▶▶ボタンを押して設定を選び、YESボタンを押す。

パワーセーブ機能を 選ぶ設定

働かせる	Power Save On (初期設定)
働かせない	Power Save Off

- 4 MENU/NOボタンを押す。

i.LINKについて

ここではi.LINKの規格や特長について説明します。i.LINKを使って操作を始める前にお読みください。なお、i.LINKを使った接続や操作は、機器によって異なることがあります。本機とi.LINK対応機器との接続については詳しくは、「接続する」(4ページ)をご覧ください。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。

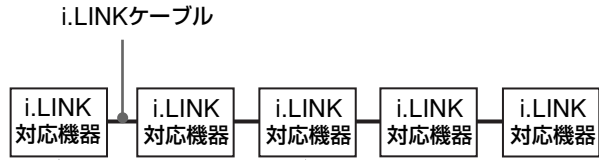
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

i.LINK (アイリンク) はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKでの接続について

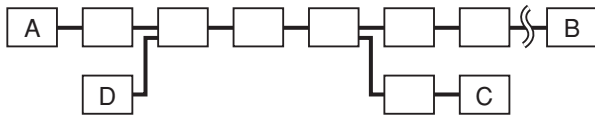
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

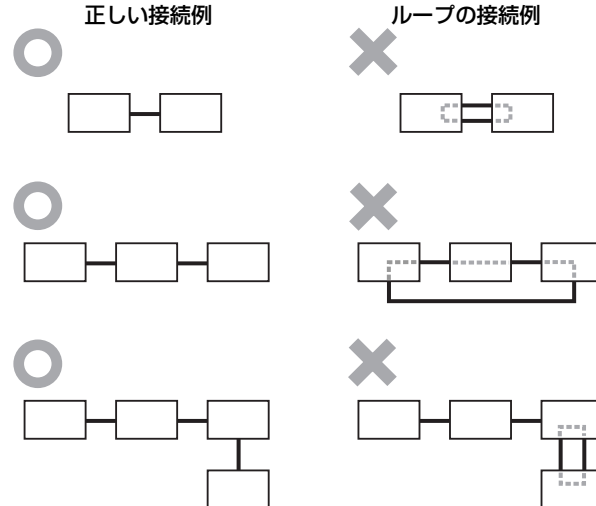
- i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。) ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。



A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます(最大16ホップ)。

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪(環状)になることを「ループ」と呼びます。



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400 Mbps*が定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？

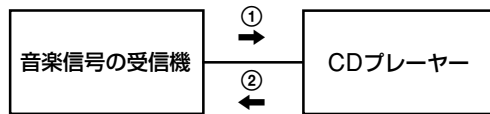
「Mega bits per second」の略で、「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。200 Mbpsならば、1秒間に200メガビットのデータを送ることができます。

リンク 「LINCする」とは？

i.LINK対応機器間をi.LINKケーブルで接続しただけでは、音楽信号の送受信をすることはできません。音楽信号を送信する機器と受信する機器をLINCする必要があります。「LINCする」とは、送受信を行う機器間に「音楽信号の論理的な経路を確立する」ことを意味します。この論理経路には識別番号があり、送信側はこの経路に音楽信号を出力し、受信側はこの経路の音楽信号を入力します。送受信を行う機器は、この経路を互いに知っている必要があります。LINCするとき、i.LINK対応機器間で、以下のようなやりとりが行われます。

例) 音楽信号を受信する機器からCDプレーヤーをLINCするとき

- ① CDプレーヤーに対して、「これから、音楽信号の論理的な経路を確立してください」と、音楽信号の経路の識別情報を送る。



- ② 「了解です」とCDプレーヤーが信号を送る。

以上のようなやりとりが行われ、LINCが完了して初めて、i.LINK対応機器間で音楽信号を送受信できるようになります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

音量を調節するときは

CDはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかける時のように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、CDや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、CDを取り出しておいてください。

結露が生じたときは、CDを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

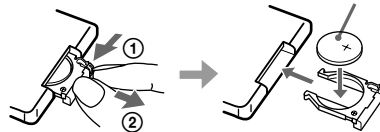
本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

乾電池の交換のしかた

乾電池ケースをリモコンから引き出し、ボタン電池をはずします。次に、新しい電池の+の刻印のある面を上にしてケースに入れ、ケースをリモコンにはめ込みます。

リチウムボタン電池CR2025



- ① 押し続ける。
- ② 引く。

警告

乾電池を正しく交換しないと、液もれや破裂のおそれがあります。メーカー推奨の、同じまたは同等の型の電池を使用してください。また、捨てるときにはメーカーの指示に従ってください。

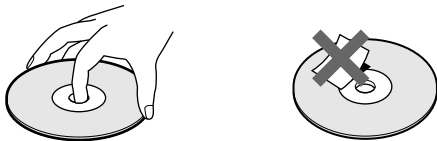
輸送について

本機を輸送するときは、お買い上げ時のように、ディスクトレイに保護材を取り付け、セロテープなどで固定してください。保護材について詳しくは、5ページをご覧ください。本機を輸送する前に、CDは取り出しておいてください。

CDの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（演奏面）に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。



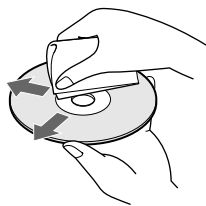
- 中古／レンタルCDなどでシールやのりが付着しているCDは使用しないでください。プレーヤー内部にCDが張り付いて取り出せなくなったり、プレーヤー本体の故障の原因となります。

保存のしかた

- 直射日光があたる場所など温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと、変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーご相談窓口またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。


音が出ない。

- ➔ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- ➔ レシーバーを正しく操作していない。
- ➔ 転送速度が200 Mbpsのi.LINKケーブルを使う。

演奏が始まらない。

- ➔ CDが入っていない（「No Disc」が表示されている）。
- ➔ CDをディスクトレイの上に、文字の書いてある面を上にして正しく置く。
- ➔ CDが汚れている。
- ➔ 結露しているので、CDを取り出して電源を入れたままの状態です約1時間放置する（19ページ）。

リモコンで操作できない。

- ➔ リモコンと本体との間に障害物がある。
- ➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
- ➔ リモコンの乾電池を交換する（19ページ）。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：CDP-LSA1
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

システム

形式 コンパクトディスク
デジタルオーディオシステム

入出力端子 (i.LINK S200)

i.LINK端子 4ピン↔4ピン (S200)
伝送プロトコル A&Mトランスミッションプロトコル (IEC61883-6)
信号フォーマット 2チャンネルリニアPCM (IEC60958)
サンプリング周波数 (出力) 44.1 kHz

電源、その他

電源 AC 100 V、50/60 Hz

消費電力 17 W

最大外形寸法 430×70×315 mm
(幅/高さ/奥行)

質量 約4.6 kg

付属品

i.LINKケーブル (4ピン↔4ピン) (1)
リモコン (1)
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
保証書 (1)

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は下の表のとおりです。

メッセージ エラーコード 原因と対処のしかた

CANNOT LINC	C78 : 11 / C78 : 12	本機が他の機器とLINCしているため、別の機器とLINCすることができない。使わないLINCを解除する。
BUS FULL	C78 : 15	ひとつのi.LINKの経路がいっぱい、本機からそれ以上の信号を出力できない。本機と接続した機器のLINCを解除する。
LOOP CONNECT	C78 : 03	i.LINK接続がループしている。接続を確認する（17ページ）。
NEW CONNECT	—	i.LINKの経路に新しい機器が追加された、または経路からある機器がはずされた。表示が消えるまで数秒間待つ。

五十音順

か行

- 聞きたい部分を探す
 - 音を聞きながら 11
 - 数字ボタンを使って 11
 - 表示窓を見ながら 11
 - AMSを使って 11
- 言語を選ぶ 10
- 故障かな?と思ったら 19

さ行

- シャッフル演奏 13
- 接続 4
 - 概要 4
- セットアップメニュー
 - パワーセーブ機能 16
 - 表示窓の明るさ 15
- 全演奏時間 8

な行

- 残り時間 8

は行

- 箱から出したら 4
- ふつうの演奏 6
- プログラム演奏 13
 - 内容を変更する 14

ら行

- リピート演奏 12
 - 指定した部分を繰り返す 12
 - 全曲を繰り返す 12
 - 1曲を繰り返す 12
- リモコン 4

アルファベット順

- A↔Bリピート 12
- AMS (頭だし) 11
- CDの取り扱い 20
- CD TEXT 9、10
- i.LINK 16

数字順

- 1曲リピート 12

操作ボタンなど

ボタン

- A↔B 12
- CLEAR 13、14
- DISPLAY 8、9
- MENU/NO 10、15、16
- PLAY MODE 13
- REPEAT CLEAR 12
- SCROLL 9
- YES 10、15、16
- ▶ 6、7、12、13
- ▷|| 6、7、12、13
- || 7
- 7
- ◀◀/▶▶ 11
- ◀◀/▶▶ 7、11
- ⊞ 6、7
- >10 11、13
- 数字ボタン 11、13、14

スイッチ

- I/O 6

端子

- i.LINK S200 4、5

その他

- ディスクトレイ 6
- 電源コード 5
- 表示窓 8~10、15
- H.A.T.S.ランプ 10
- STANDBYランプ 6
- Ⓜ 20

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

- | | | |
|----------------------------|--|------------|
| ● ナビダイヤル…………… |  0570-00-3311 | 受付時間： |
| (全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます) | | 月～金 |
| ● 携帯電話・PHSでのご利用は…… | 03-5448-3311 | 9:00～20:00 |
| ● Fax …………… | 0466-31-2595 | 土・日・祝日 |
| | | 9:00～17:00 |